

# ハローワークで新卒者の就職支援を進めています！

ハローワークでは、将来の日本を担う新卒者が安定した仕事に就けるよう、新卒者・既卒者の就職支援を進めています。

## ～新卒者（就職活動中の学生・既卒者）への支援を進めています～

### ○全都道府県にワンストップで新卒者を支援する「新卒応援ハローワーク」を設置

全都道府県に、就職活動中の学生・既卒者の皆様が利用しやすい専門のハローワークとして、「新卒応援ハローワーク」（平成26年1月21日現在：57カ所）を設置しています。お気軽にご利用ください。

【実績】平成22年度はのべ 228,952人が利用し、30,485人が就職決定（平成22年9月～23年3月末）

平成23年度はのべ 580,745人が利用し、75,041人が就職決定（平成23年4月～24年3月末）

平成24年度はのべ 709,648人が利用し、94,173人が就職決定（平成24年4月～25年3月末）

平成25年度はのべ 468,126人が利用し、61,581人が就職決定（平成25年4月～11月末・速報値）

#### 【主な支援メニュー】

- ・全国ネットワークによる豊富な求人情報の提供、職業紹介、中小企業とのマッチング、求人開拓、就職活動に役立つ各種セミナー
- ・就職までの一貫した担当者制による個別支援（求人情報の提供、就職活動の進め方、エントリーシートの添削、面接指導等）
- ・臨床心理士による心理的サポート

※ 新卒応援ハローワークの所在地・連絡先はこちら→ <http://www.mhlw.go.jp/topics/2010/01/tp0127-2/dl/5a.pdf>

### ○「ジョブサポーター」によるきめ細かな支援

「学卒ジョブサポーター」を配置（2,300人（平成25年度予算））し、きめ細かな支援を行っています。

【実績】平成22年度は 59,903人の就職が決定（平成22年9月～23年3月末）

平成23年度は163,133人の就職が決定（平成23年4月～24年3月末）

平成24年度は193,562人の就職が決定（平成24年4月～25年3月末）

平成25年度は123,418人の就職が決定（平成25年4月～11月末・速報値）

#### 【大学・大学生等への主な支援内容】

大学等と連携した出張相談・就職支援セミナー、新卒応援ハローワークにおいて就職活動中の学生・既卒者への個別支援（エントリーシートの作成相談、面接指導、応募先の選定など）及び求人開拓等を実施

#### 【高校・高校生への主な支援内容】

学校と密接に連携し、求人情報の提供、職業適性検査や各種ガイダンス・セミナー、求人開拓、未内定者に対する一貫した個別支援（職業相談、応募先の選定、面接指導等）等を実施



## ～3年以内の既卒者の新卒扱いの普及に取り組んでいます～

### ○「青少年雇用機会確保指針」の周知に取り組んでいます。 (「卒業後3年間は新卒扱い」を明記)

雇用対策法に基づく「青少年雇用機会確保指針」(※1)を改正(平成22年11月15日)し、事業主が取り組むべき措置として、学校等を卒業後少なくとも3年間は新卒として応募できるようにすることを盛り込み、厚生労働大臣より主要な経済団体等に協力を要請しました(※2)。また、労働局・ハローワークにおいても事業主の皆様への周知を進めていきます。

※1 雇用対策法第7条において事業主の努力義務として、「青少年の雇用機会の確保」が定められています。事業主が具体的に取り組むべき事項を定めたものが「青少年雇用機会確保指針」です。

※2 平成22年11月15日に245団体に厚生労働大臣より要請書を送付

(要請書全文：<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000000wga1-img/2r9852000000wgut.pdf> )

## ～ジョブサポーターの支援による就職事例～

### 事例1

今春大学を卒業するAさん。就職活動と大学研究との両立が上手くいかず、就職活動が出遅れていた状況にあった。頻りにハローワークに来所するのが難しいとの相談があったため、Aさんの大学内で出張相談を行っていることを案内し、ハローワークと大学内での相談を継続的に行った。相談を続けていく中で、履歴書・エントリーシート作成にも不安を抱えていることが分かったため、応募の都度添削を行い、面接のポイントも助言。相談等で自信をつけていくなかで内定を得ることができた。

### 事例2

大学院で情報システムの研究をしているBさん。研究してきた情報関係の仕事ではなく、「自分にあっているのは接客・販売ではないのか」と悩んでいるとハローワークで相談。その後相談を重ねる中で、性格、コミュニケーション能力、価値観等を本人とともに分析把握し本人の能力を生かせる業種・職種の選択、応募に向けた就活スケジュールに沿った支援を実施。結果として研究とは関係の無い「本人が意識した『販売』」で就職することとなったが、Bさんからは内定の報告に加え「もっと早く相談すれば良かった」との連絡があった。

### 事例3

今春高校を卒業するCさん。希望職種が漫然と事務職というだけで、具体的な応募先を決めることができなかった。職種の理解が浅く、仕事をイメージできないため、事務職と一口に言っても、一般事務、経理事務、医療事務等違いがあることを説明し、職種理解の手助けから支援を始めた。具体的な仕事内容や必要な資格を提示することで自信の就きたい仕事を明確にイメージすることができるようになり、通信教育で資格も取得した結果、それが自信にも繋がり、病院の医療事務職に内定を得ることができた。

### 事例4

大学工学部に通うDさん。就職活動が思うように進まない状況の中、新卒応援ハローワークに来所。CADに興味を持っていたため、デザイン系の仕事を中心に応募を重ねていたが、デザインについて深い知識があるわけでもなく、他大学の学生と競合した際、自分を積極的にアピールできないでいた。こうしたことから、面接対策に重点を置き、新卒応援ハローワークで「模擬面接」を2回受講。窓口での相談時には面接で想定される質問の応答について練習を重ねた。就職試験では、積極的に自分をアピールすることができ、商品開発職として内定を得ることができた。